

魚沼市における新潟県稀産アイナエの生育とその保全

富 永 弘

正直に告白すると、「アイナエ」という植物のことは全く知りませんでした。たまたま、魚野川堤防の清掃活動の際に見かけたのです。「何の仲間だろう？ 見慣れないし、アブラナ科の帰化植物ではないか？」と思いました。しかし、図鑑のアブラナ科の項目にはないし、帰化植物にも似たものが見つかりません。ますます、「ごく最近帰化したものだろう」との考えを強めました。

思いあぐねて、「恥ずかしながら…」と植物に詳しい先生に聞いてみました。「これは帰化植物ではないが、珍しい。」ということで、初めて名前を教えてくださいました。科の位置づけにも複数の説があるようで、馴染みのない「マチン科」（日本の野生植物）などとは、全く思い浮かびませんでした。お話では、魚沼市以外に県内に2か所の生育が確認されていて、情報の錯綜かタイミングか、新潟県のレッドデータブックには登録されなかったとのこと。当然に載ってよいように思える一方で、「小さな植物であり、花の時期以外は目につきにくいので、詳細に調査すれば意外と見つかるかもしれない」とも思います。お隣の長野県のレッドデータブックでは、1969年以降の記録がなく絶滅種とされていたが、近年県の南部と北部（栄村）で

相次いで発見されたそうです。生育地はいずれも畔とのことでした。

魚沼市の生育地は、小出地区の魚野川左岸（西側）です。図鑑には「日当たりの良い湿った地に生える」とありますが、堤防の芝生の中に生えていて、むしろ「乾燥した陽地」という印象の場所です。確かに、芝の間に藓類の生育もあって、水はけが悪いようにも見受けられたものの「湿った」というイメージとは遠いものでした。上記長野県における畔の生育とも異なる印象を抱きます。

初めて出会った2007年には、堤防の広い範囲に生育していた記憶があるのですが、今年（2009年）は随分少なくなって、何回か探してようやく見つけました。生育地は、堤防管理の一環として非常によく手入れの行き届いた場所です。草丈が低いことも幸いしたとは思いますが、開花・結実までを確認できたのは、「堤防管理と自然環境保全」という難しい課題に対し、誠意をもって取組まれた「魚沼市」のご協力なしには実現できないことでした。今後も、行政や関係者のご理解のもとに、毎年咲き続けてほしいものと願っています。



写真1 アイナエの群生 (2009. 8.29)



写真2 アイナエの葉 (2009. 8.24)

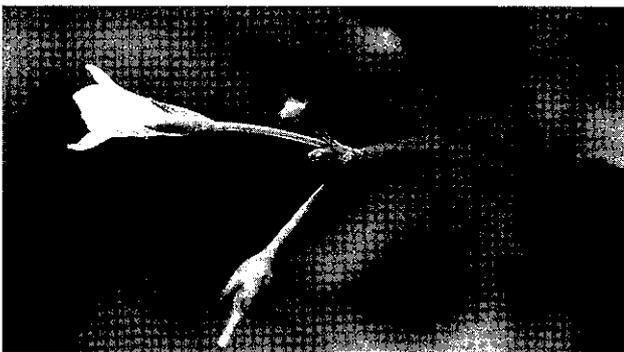


写真3 アイナエの花 (2009. 8.29)



写真4 アイナエの果実 (2009.10.21)